

提出資料

提出者：日本社会事業大学 平野 方紹

盲重複障害者に関する資料の提出について

1. 平成23年度 全国盲重複障害者福祉施設研究協議会 実態調査報告書

全国盲重複障害者福祉施設研究協議会は、昭和55年に発足し、現在16法人22施設が加盟し、視覚障害と他の障害を併せ持つ盲重複障害者の福祉の向上の為、日々活動している研究団体です。この度、加盟施設の利用者約1300名を対象に実態調査を実施し致しましたので、その資料を提出致します。

【調査機関】全国盲重複障害者福祉施設研究協議会 調査委員会

【調査の目的】視覚障害と他の障害を併せ持つ盲重複障害者とはどのような障害状況にあり又、どのような福祉ニーズを持つ存在なのか明らかにすること。

【調査対象】全国盲重複障害者福祉施設研究協議会 加盟施設を利用する者

【調査の時期】2011年（平成23年）7月1日

【調査の方法】調査対象に「実態調査票」を送付し、回答を求める。

【調査結果の概要】

- (1) 利用者の約3/4が障害程度区分5以上の重度者であり又、その障害の特性上、支援の専門性が必要となる。
- (2) 利用者の退所後の状況として、地域移行する割合が少なく、就労するケースは極めて稀な状況である。
- (3) 利用者の1/4が加盟施設のない都道府県からの利用者であり、又、利用前の状況が盲学校から来るケースが多く、盲重複障害者の専門的な施設を求めている現状である。

※詳細については、実態調査結果をご参照ください。

2. 盲重複障害者福祉ハンドブック

本書は、盲重複障害者福祉の現場職員及び関係する方々の研究及び実践の一助となるよう、本協議会による実態調査及び研究の成果をまとめ、盲重複障害者の支援マニュアルとして作成されたものです。

以上、2点の資料を提出致しますので、ご一読頂ければと存じます。

(全国盲重複障害者福祉施設研究協議会ホームページアドレス)

<http://mouchoufuku.skr.jp/>